

ごあいさつ

地域のみなさまには、日頃から那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合が行う事務事業にご理解とご協力をいただきまして感謝申し上げます。

おかげさまで、平成18年春の本格稼働に向けて建設中の新焼却施設につきましては、工事の方も順調に進捗しております。今年度は引き続き土木建築工事及びプラント工事が行われることになっております。

地域のみなさまとの話し合いを進めております還元施設整備事業につきましても、今年度は基本・実施設計に用地買収と大事な時期を迎えております。

又、新たに那覇市港町に建設が予定されております新最終処分場につきましても、今年の4月から最終処分場建設課が当組合に配置され、工事が開始される予定となっております。

このように平成16年度は那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合にとって非常に重要な時期を迎えております。

諸々の事業を進めるにあたりましては、新たに組織体制の強化を図るとともに、引き続き地域のみなさまと話し合いを持ちながら、環境に配慮した安全な工事を心がけて事業を進めてまいりますので今後ともよろしくお願いいたします。

那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合
管理者 翁長雄志

那覇市・南風原町ごみ処理施設事務組合 新しい組織体制整う

平成16年4月1日付の人事異動により、新事務局長に湧田 廣、事務局次長に松田 馨が配属になりました



(平成16年4月1日現在)

地域のいいところ見つけた

今回は、那覇市首里鳥堀町、県営鳥堀市街地住宅、城東団地周辺を紹介します。

弁ヶ嶽(べんがだけ)県指定史跡



首里城の東方約1キロの所にあつて、俗に「ピンヌウタキ」と呼ばれています。峰全体が御体になっており、海拔165.7mで、本島中南部では与座岳(168.4m)に次ぐ高さの峰です。そのため、かつては航海の目標ともなり、1945(昭和20年)の沖縄戦の前まで松などの大木が茂っていました。弁ヶ嶽は大嶽と小嶽の2つに分かれ、神名は大嶽が「玉ノミウチステルカワノ御イベツカサ」、小嶽は「天子」テダゴです。

昔は1,5,9月に国王の親祭がありました。沖縄戦で破壊消失した大嶽前の石門は、1519(正徳14)年に園比屋武御嶽の石門とともに築かれたといわれ、構造も工法もよく似ていました。そして1938(昭和13)年、国宝に指定されました。現在のコンクリートづくりの仮門は、1945(昭和20)年ハワイの「うるま一心会」からの寄付金と首里鳥堀町民の奉仕で建てられたものです。

かつて石門前には拝殿(フェーデン)と呼ぶ建物がありました。(「那覇市の文化財」より)

火立毛(ファイタティモ)那覇市指定史跡



王府時代灯台の役目をした烽火台跡ですが、創設年は不明です。西原、南風原の両町と首里石嶺町の3つの地域の接合する丘で、地番は首里石嶺町2-250番地です。

眼下に太平洋を見下ろす眺望のよい丘で、俗に「毛」とよばれる芽の生えた丘に烽火台が設けられたことから火立毛と呼ばれています。

かつては標高160m以上もあり、その頃よりほんの少し下がった東斜面に縦横5~6mぐらい、深さ1mぐらいの箱形に掘り下げ、内側に土留めの石積みめがめがらされています。

中国、薩摩へ往復する船等が帰帆する時期や附近漁民の船が遠くの漁から帰る頃に、この石積みまわしてある中で松葉を焚いて沖を航行する船に島の在りかを知らせ、船が太平洋へのり出さないようにしたといわれています。

創設に関わったと思われる人物の名前等が刻まれた細粒砂岩(ニービ)の原石が、土留めの石積みの中にはめこまれていましたが、磨滅がひどく、判読は困難であります。

烽火台は沖縄戦で破壊され、さらに戦後、丘の頂は削られて墓地群となつてしまい、そして前記の文字の刻まれた石だけが残されています。(「那覇市の文化財」より)

新ごみ処理施設（工場棟）建設工事

平成16年4月の工事状況写真です。

那覇市
環境センター

南側ランプ
ウェイです。

煙突です。

搬入道路です。



北側より撮影

なんでだろう？

質問コーナー

Q. 新ごみ処理施設の排ガスの処理方法を具体的に教えてください。

A. ごみの燃焼により発生する排ガスには、ダイオキシン、ばいじん及び酸性ガス（塩化水素、硫酸酸化物、窒素酸化物）等が含まれています。新ごみ処理施設にはそれらを除去・低減する設備が備えられており、図1にその流れを示します。

- ①焼却炉
焼却炉へ投入されたごみは自動燃焼制御により安定的に燃焼されます。ごみを完全燃焼することによりダイオキシン等有害物質の発生が抑えられます。
- ②二次燃焼室
発生した排ガスを二次燃焼室で燃焼処理します。ここで排ガス温度を約850℃で2秒間キークーシダイオキシンを熱分解します。
- ③No.1バグフィルタ
排ガスの通り道（煙道）に活性炭を吹込み、残存するダイオキシンを活性炭に吸着させ、No.1バグフィルタにて捕集します。また、ばいじんもバグフィルタで捕集されます。
- ④No.2バグフィルタ
No.2バグフィルタ以降が酸性ガスを低減する設備です。煙道にアルカリ性の消石灰を吹込み、排ガス中の酸性ガス（塩化水素、硫酸酸化物）と反応させ、その反応生成物を捕集します。
- ⑤触媒反応塔
本設備は、排ガス中の窒素酸化物を、アンモニアを吹込み塔内触媒により無害な窒素と水に戻すものです。
- ⑥煙突（鉄筋コンクリート造75m）
処理された排ガスを大気中に放出するためのものです。外見上は1本ですが、内部に各焼却炉ごとの専用内筒（鋼製）が3本設置されています。専用の煙突を設置することにより、常に適正な吐出速度を維持することができます。

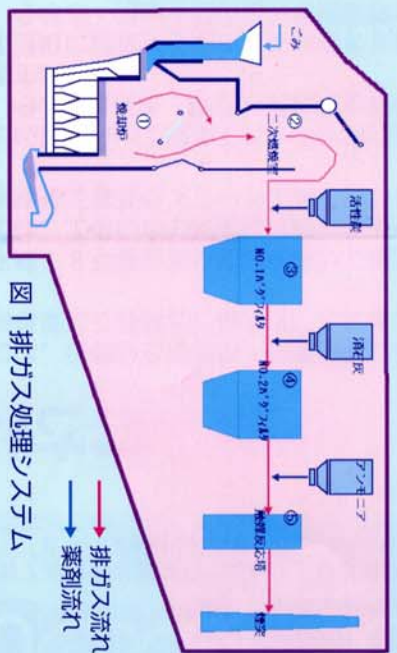


図1 排ガス処理システム

編集後記

那・南ごみ組合ニュースの発行も早1年になりました。これからも読みやすく、親しみやすい広報誌作りに取り組んでいきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

* この紙は再生紙100%を使用しております。